

今月の聖句

『幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、
神の恵みに包まれていた。』
(ルカによる福音書 第2章40節)

◎2月の予定

- 4日(火) 授業参観・保護者会
- 7日(金) 中学校自宅学習日
- 7日(金)・8日(土) 中学校入学考査
- 9日(日) かながわ駅伝(陸上競技部選抜)
- 18日(火) 理事会・評議員会
- 19日(水) スケート教室(小)
- 20日(木) 教務委員会
- 22日(土) 二〇二〇年度入学説明会
- 26日(水)〜28日(金) 学年末試験(中)
- 27日(木) 教職員協議会
- 29日(土) 相模原小学生駅伝(陸上競技部)

◎3月の予定

- 4日(水) 卒業遠足(中3)
- 7日(土) サッカー交流会
(関東六浦)(小)
- 12日(木) 教務委員会

☆ステパノカップ(3月)

- 2日(月) バレーボール部
- 5日(木) 陸上競技部
- 6日(金) サッカー部
- 9日(月) バスケットボール部

ハンドベルコンサート 3月21日(土)
十四時〜海の見えるホール



一月二〇日(金)
中学校新年会



第66回大磯一周駅伝大会出場
団体の部 4位 総合 7位



第7回大磯小学生駅伝大会
「優勝」 2020.1.19



1月30日(木) 大磯運動公園でマラソン大会を実施しました。

◎今月の行事から

○授業参観・保護者会 4日(火)

本年度最後の授業参観、保護者会でしたが
たくさんの方の保護者の皆様においで頂き、あり
がとうございました。(一年間の成長ぶりが
御覧頂けたと思います。)



○小学校 スケート教室 19日(水)

今年度も小三〜小六の学年が、横浜銀行ア
イスアリーナにてスケート教室を行います。
毎年滑ることで、その度に上達を実感しなが
ら、楽しんで体力の向上を図ります。

○小学校 第52回 神奈川県私立小学校
児童造形展

～自分でいっしょ、ソノソノのせいかい。～
神奈川県民ホールギャラリーにて、2月
11日〜16日の6日間、23校の私立小学校が
参加して開催されます。豊かな自然の中で育
まれたステパノっ子の図工作品を、是非、現
地へ足をお運びいただき鑑賞ください。

○中学校 焼きそば大会 28日(金)

学年末に向かってしっかりと学習に取り
組み、まごめとして学年末試験が月末に行わ
れます。そして三日目の試験が終わると、恒
例の焼きそば大会です。焼きそばは中三の担
当ですが、各学年オリジナルのなべ料理も作
ります。寒い時期に、みんな一緒に、心も体
も温まるひと時です。

八十八年間休みなし

学園長 小川 正夫

家でくつろいでいるときには、コストリカとグアテマラのコーヒー豆をブレンドして飲んだり、ロイヤルミルクティーをマグカップいっぱいにして飲むことが楽しみですが、昨年五月連休の頃、カップを手にしながら居眠りしていたようで腿のあたりが熱いので見るとズボンがすっかり濡れていました。

同じような様子でそのまま亡くなった人がいると聞いたことがあったので、気を付けなければと思っていたところ、六月、何気なく見ていたNHKの番組、「きょうの健康」で心不全の症状が紹介され、思い当たることはいくつかあったので、東海大学病院、榊原病院、慶應義塾大学病院に受診し相談しました。

精密なエコー検査を見せて戴いたところ、心臓が肥大し、大動脈弁の閉鎖が不十分で血液が逆流しているのがよくわかりました。

医師の共通した診断では、かなり高齢での手術になるのでリスクが大きく手術には消極的という意見があり、高齢だからこそ手術をした方がいいという意見もありました。

「あなたが生まれた時から八十八年間、あなたが寝ているときも、ゆっくりお風呂に入っているときも、食事を楽しんでるときも、心臓は一時も休まず動き続けてきたのです。

選択肢は二つ、心臓の故障を手術で治すこ

と、これにはかなりのリスクが伴います、もう一つは養生しながら静かに生活すること、あなたは特に異常の自覚はないようですが、自覚があったときはすでに手遅れになっているのが心臓の病です。自覚がなくとも三か月ぐらいの内に、突然倒れるかもしれない。決めるのはあなたです。家族とよく相談してください」ということでした。

「あなたが倒れたら、教職員や生徒さん達、あなたも困るでしょう、現役で仕事をしている人が大きな手術を受けるといっても、社会復帰できなければ手術の意味がないと思います。私が慶應義塾大学の名を背負って必ず成功するように執刀します。」といってくれた医師がおりました。

ここまでくれば潔く手術を受ける決心をしなければなりません。一週間の検査入院であらゆる検査を受け、ICU・HCNで三週間一般病棟一週間の入院生活が始まりました。

入院三日目、朝八時手術室に入り夕方五時に終わったようです。勿論全身麻酔、私は眠っている間に終わり手術の経過は全く分かりませんが胸の右脇の下を一〇cmほど切り開き、心臓を肺の上に引き寄せ、古い大動脈弁の切除と生体弁を置換えるというものでした。

手術の前に担当の医師から様々な説明を受けますが、麻酔科の医師から説明を受けた時「麻酔って本当にありがたいですねと声をかけると、先生は「そう言ってもらえると嬉しいです」と応えてくれました。

手術は無事に終わりましたがICUの生活は厳しく、食事は勿論水も飲めません。そんな中、毎日、朝夕採血検査と尿検査、午後にはX線撮影、毎朝夕、夜中の医師と看護師の回診、酸素吸入を兼ねた人工呼吸、昼夜逆転しないように昼間はTVをつけたままです。なぜか絶食中で水も飲めないのに、番組は食べ物を紹介するものばかりが多く、三週間目に小匙二杯の水がとてもおいしく思いました。流動食を少し戴くようになって、看護師や医師が横につききりで監視、CTで流れの映像観察がとて厳しく、嚥下については一週間慎重で医師がそばについていました。

主治医の話では、「高齢の方の手術というのはこういうことなのです。凡そ一〇歳年齢を重ねたぐらいの状態と考えるとよく、だんだん回復していきます。」ということでしたが、自分が九十八歳まだ生きてるとこんな感じなのかと不思議な感じがしました。

ICU（集中治療）HCN（高度治療室）一般病棟の多くの看護師の皆さんが回復に向かう少しの変化に対しても自分のことのように喜んでくれて笑顔で「よかったですね」と言ってくれるのを聞きながら、学校の先生もこのような気づきが大切だと教えられた思いでした。

入院中、子ども達は勿論、多くの方々からの励ましを頂き、大きな力になりました。有難うございました。

一月一〇日退院しました。

リレー企画

3回目を迎えた、山口・清水両先生のリレー原稿は、子ども達の「明日」につながる小さな働きかけがテーマです。日常生活の中での、ちょっとした我慢や、太陽の下で体を動かすこと。毎日の積み重ねで、落ち着いて気持ちよく過ごせる生活習慣を、自然に身に付けてほしいと思います。

やめることのできる力

スクールカウンセラー 山口 滋美

「一度決めたらやり通すことが大事だ」とか「やるべきことをきちんとやってほしい」など、とかく実行する力が求められる風潮があるように思います。まして学校教育の中では特に重視される力のようなのです。

しかし、人間、「やること」と「やめること」では、どちらが沢山のエネルギーを必要とするでしょうか。最近の子ども達をみると、いや大人でさえ、後者の方がはるかに難しいのではと感じます。「ゲームを始めたら約束の時間がきてもやめられない」「楽しくなると騒ぐことをやめられない」「リスクがあると分かっているにもかかわらず「やめられない」など枚挙にいとまがありません。だいぶ前ですが、駅にも「ストップ 暴力」というポスターが登場しました。

立命館大学の宮口幸治氏は医療少年院で非行少年の矯正教育に携わった経験から、認知

機能の弱さ、感情統制の弱さ、融通の利かさ、不適切な自己表現、対人スキルの乏しさを実感し、「認知機能トレーニング」を開発しました。一昨年のLD学会の講演では、宮口氏が特に感情統制の弱さをとりあげ、「自分の行為にストップをかけられる脳を作ることが大切。それには練習が必要だ。」と力説していたことが印象的でした。

この認知機能トレーニング (Cognitive Training) は「コグトレ」という略称で、現在は矯正施設に限らずむしろ一般学校教育に広く使用されはじめてきています。一例としては、指定された絵に○を付けていきながら、別のマークが絵の前にある時は○をつけないというような課題のプリントです。継続的に取り組むことで効果が上がるようです。

これも一つの方法ですが、日常生活の中にも、自分の行為にストップをかける力を育てる場面はたくさんあります。しゃべりたくても黙る、遊びをやめてお風呂に入るなどです。「やりたいけど我慢する」「やっていることを我慢してやめる」という練習を小さいころから積み重ねることが大切だと思います。



体を動かすこと

養護教諭 清水 花葉

日本体育大学体育学部教授の野井真吾先生の研究で、子ども達の毎朝の登校後に自由に体を動かして遊ぶ時間を取ると、その日のその後の生活を落ち着いて送ることができるといふものがあります。脳をしつかり『興奮』させることが、脳にとってとても重要だそうです。

このように体を動かすだけでも充分ですが、部屋遊びを外遊びに変えて太陽の光を浴びることで、睡眠ホルモンとも言われるメラトニンが脳内で分必され、夜にぐっすり眠ることを助けてくれます。さらに最近乱れている子どもが多いと言われている自律神経を整えることもできるようで、朝のうちに体を動かすこと、特に外遊びにはたくさん体の体によいとされる効果があるようです。

現在、聖ステパノ学園では、登校後に体を動かす時間を設けてはいませんが、少しでも子ども達が体を動かせるように働きかけていけないかと考えます。休日は休みたい気持ちもあると思いますが、体のためを思つて体を動かすに出かけてみてはいかがでしょう。これらは子ども達にすすめていることですが、大人も同じではないか思います。子ども達のためにも、私達大人から積極的に元気な生活を手に入れていきたいものです。

共に学び 続ける学びが力を伸ばす

長期的なものの方から成長につなげる

教諭 上戸 基夫

数年前、富士山に登る機会がありました。一度は登ってみたいと楽しみに登山の日を迎えましたが、実際に登ってみると、「険しいのぼり道」が延々と続き途中で心が折れそうになりました。しかし、頂上での景色や達成感は格別で、筆舌に尽くしがたい気分になったことを覚えています。下山後、学校の岩崎山から毎日眺める富士山の、「稜線の美しさ」は、やはり世界に誇る名山だと心から思える瞬間でもあります。

なぜ富士山の話をしたかという点、自分が意識して子ども達に伝えていくことがあるからです。

一日一日の学習を考えれば、出来ない、わからないで結果的に勉強が嫌になる。本当に険しいのぼり道です。子ども達も人間ですから、調子がいい時もあれば、調子が悪い時だってあります。ちょうど富士山を登っている時に目の前に見える長く険しい登山道だと言えるでしょう。ですが、学習が自分の力になった時、遠くから富士山を眺めた時の様に、長い間の努力は空に向かって伸びていく、上向く美しい稜線の様に感じるはずですよ。その思いを伝えたく、一年生の頃から毎日「百ます計算」を使ってみました。計算が大好きな子にしてみれば、あんなに楽しいものはありません。ですが、計算に自信がもてない子どもや、算数が嫌いな子にしたら、地獄でしかないはずですよ。それでも選んだのは、計算力をつけて欲しいという願いに加え、前述の長い期間で物事を考えられる力をつけて欲しいという目的があったからです。加えて目標を持って取り組めるように毎回自分の目標を記入して取り組みました。

最初は多くの子ども達が嫌がりました。設定した目標も達成することができず前向きになれない子ども達も数多くいました。辛抱強く続け三か月を過ぎた頃、記録していたタイムを、折れ線グラフにして見せてみました。初めは一週間の推移です。タイムが悪くなっている子、時間内にクリアできなかった子など多くの子どもがため息をつきます。ですがグラフ全部を見せた時に、子ども達の様子が変わりました。全員のタイムが良くなっていたのです。「毎日の事ばかり意識しているとダメばかりが目立つけど、取り組んだ期間全体をみれば全員が出来るようになっていっています！」その日からクラスの雰囲気が変わるのを感じました。子ども達の発言も、タイムが良い時や目標が達成できた時には「やったー」「昨日の自分に勝った」など前向きな言葉が聞かれるだけでなく、結果が悪かった時でも、「また明日頑張ろう」「明日はやるぞ」など前向きな言葉が聞かれるようになりました。「百ます計算をやって自分でどんな力が付いたと思いますか」とアンケートで問いかけると、「集中力が付いた」「諦めない力が付いた」という答えが数多く見られました。単に計算が早くなったという気持ちだけではなく、目標としていた「長期的に物事を考える」こと、そしてその先にある心の成長につながったことがわかりました。

これらは、あくまで学習に臨む姿勢をつくる一歩であり、子ども達が自分自身で気が付き、前向きに取り組める気持ちに繋がるひとつの手段でしかありません。子ども達は「やりなさい」と言われるものは基本的にやらないものですが、興味があるものや自分がやってみたいと思うものは、自ら取り組み学んでいくものです。ステパノの子ども達も自ら気が付き、成長するきっかけを見つけ出しながら、その先にある深い学びと学び合いにつながっていくように、日々取り組みを深めていきたいと思えます。

『マラソン大会に向けて』の作文から

教諭 高桑 恵

年明けからマラソン大会に向けて走る練習をしてきました。幼稚園の時にマラソンの経験がある子は少ないので、ほぼ初めて1.2km走することに不安を覚えているようでした。体育科の先生が、一定の距離を続けて走る練習をしてくださり、先日はみんなで実際のコース（大磯運動公園）へ行って練習をしました。私の心配をよそに、皆よくがんばって走り、普段よりも凛々しい表情に見えました。そして、思っていた以上に速いタイムで全員走り切りました。

学校に戻り、自分のタイムや順位を確認しながら、マラソン大会に向けてどんなことを思っているのか作文を書いてもらいました。その作文も私の予想に反して「疲れた。もういやだ。」と書いた子はいませんでした。ほとんどの子どもが「つぎは、もっと速く走りたい!」「もっと、がんばる!」と書いていたのです。中には「本番では、一位をとりたい!」と書いた子もいました。

今まであまり経験したこともない『マラソン』というハードルを軽々と超え、お互いに競い合って、さらなる高みを目指していく子ども達：なんと頼もしいことでしょう。運動会では勝ち負けばかりに気をとられ、負けてしまったことが悔しくて泣いてばかりいた子ども達が、こんなにも頼もしく成長していることが本当に嬉しくて、感動してしまいました。

四月から事あるごとに、『難しいことや初めての事に対して、やる前から無理だと思うのではなく、まずはやってみる』『どんなことにも一生懸命取り組む』と話してきました。約一年間続けてきた結果、『自分は、もっとできるんだ!』と自信が付き、力強く成長していることを肌で感じることができました。これほどの喜びはありません。これだけがんばれる子ども達なら、来年は、もっとカッコいいお兄さん・お姉さんになれることでしょう。「がんばれ、一年生!」



学び合い 伸びるステパノの子ども達

教諭 中村 弘之

二〇〇〇年からOECD(経済協力開発機構)によって始められたPISAテスト(学習到達度テスト)の結果は、日本に衝撃を与えた。このテストは3年ごとに15歳を対象に行われるもので、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野で行う。日本はどの分野も2位グループだったのだ。求められたのは、記憶を中心とした日本の学力ではなく、自分で考え、答えを探していく力だった。もう一つの驚きはフィンランドがどの分野でも一位だったことだ。それまで教育分野で注目される国ではなかったし、戦後ある時期まで日本の教育体制を模倣していたはずのフィンランドに何が起きたのだろうか。実は、フィンランドでは行政と研究者と親達が話し合いを重ね、教育環境を整えていた。私なりにまとめた主な内容は、

- ① 学習内容は行政から与えられるのではなく、子ども達の現状から教師が判断する。
- ② 教師の給料を最高水準にし、最も優秀な人材が集まるようにする。
- ③ 行政は学校に金は出すが口は出さない。

今では子ども達のなりたい職業の一位が教師だそうだ。さて、それ以後、文部科学省はどのようにしたら「自分で考え、問題解決ができる力」をつけられるかに舵を切る。それまで授業は教師が学習内容を教えるもの、と考えていたところから、児童・生徒が**学び合い**自ら考え方を獲得するものとした。

聖ステパノ学園では、急な方向転換はしていないが、これまでも行われていた学び合いの部分を広げていくよう努力している。「算数ステップ」もその一つだ。3年生以上が一緒に行う時間で、今年度は文章問題をひたすら解いている。互いに刺激し合い問題に挑戦する。わからないところは自分から教師に聞きに行く。その他の授業でもクラスごとの状況に合わせて、自分から考えたり発表したり相談したりする時間を増やし、授業でクラスづくりができるよう工夫している。

**〔小学校〕一月三十日(木)はマラソン大会
でした。練習や本番の日記を紹介します。**

きょうは、こうえんでマラソンをしました。うしろのこが、いきおいよくはしってきてもかされちゃいました。つぎは、がんばってぬかしたいです。(小一 TS)

きょうも、マラソンのれんしゅうをしました。きのうは、十五分でしたが、きょうは、十二分とみじかくなりました。つかれた。すつきりするな。かぜにあたると、きもちいい。そのあとはつかれたー。(小二 SZ)

* * *

今日は、マラソン大会でした。今年も大いそ運動公園で走りました。走る前は、大へんきんちようしました。おうえんにお母さんとおばあちゃんが、きてくれてうれしかったです。いよいよスタートです。わたしはどきどきしてきました。わたしのめあては、「二年の時より速く走る」ということなので、さいごまでがんばりました。とちゅうでしんどかったけれど、がんばりました。さいごは、少しおなががいたくなつたので、ゆっくりゴールしました。本当にがんばりました。今日の記録は九分五十五秒で、し走の時は、十二分二〇秒でした。(小三 HR)



今日はマラソン大会です。今年も大磯運動公園で走ります。ぼくのめあては歩かないでおそくてもいいから走りつづけることです。一年と二年の時より速く走れたらいいと思います。そして、なによりもあきらめないようにがんばります。そして、スタートしました。タイムは九分一〇秒くらいで走れたらいいなと思いましたが。一周目は三年の中で五位でした。だけど二周目は三人ぬいて二位になりました。もうこれでおわりだと思つたら、さいごのさいごでNくんをぬきました。三年生の中で一位でした。楽しかったです。タイムは思いどおりの九分一〇秒でした。三年生は全員ゴールしました。(小三 SP)

(小三 SP)

今日マラソン大会がありました。家で練習した事、和田先生、二榎木先生に教わってきいた事、すべてを発きして一日の体力すべてを使い切りました。マラソンが始まるまでは、とにかくリラックスしている事を心がけていました。もう、作戦もねっています。あとは自分と相手、体力との勝負です。どんなことがあっても呼吸を整えて静かに走ります。結果は一着でした。三、四年何事もなく全員で完走できてうれしです。本当に練習をしてよかったなと思いました。これからも、いろんな事をがんばります。(小四 HU)

(小四 HU)

**一月十九日(日)に第7回小学生駅伝大会
がありました。聖ステパノ学園の陸上競技部
が会場し、みごと優勝を果たしました。**

初めは、緊張していました。でも走り出したら、疲れましたけれどほぼ同じスピードで走れたので良かったです。そして、チーム皆が、頑張ったので、一位を獲得し優勝できました。(小六 OS)

(小六 OS)

今日、小学生駅伝大会がありました。めちゃめちゃドキドキする。Sくんがかえってくるのがめちゃめちゃ速くてビックリしました。深呼吸して、いざスタート、二位にぬかされないか、心配だったけど、ぬかされずに三区に渡せました。「よかった。」と思いましたが、三区が追いつかれた！ぬかした人は、けっこう速かったし、優勝できるかな？とドキドキしながら、見てみると、四区が一位でかえってきました！この時うれしかったです。そして、ステパノ小は、二連覇！(小五 KS)

(小五 KS)

今日は、小学生駅伝でした。連覇でした。一位をとった瞬間、「ヤッター！」と思えました。すぐうれしかったです。三分二十一秒のベストタイムでした。(小五 AM)

(小五 AM)



「中学校」晴天に恵まれた、校内マラソン大会。応援ありがとうございました。

夢のマラソン

今日はマラソン大会だ。運動公園に近づく
と緊張した。試走の時は今日より寒かった。
でも、今日は太陽が出ていて暑い。速く走れ
るか心配だ。最初の練習では、今までより速
い記録で自己ベストだった。だから今日はた
くさんの目標を立てた。自己ベストを出す。
女子で一位をとる。Mくんを抜く。など…。

運動公園に着き、走る準備をした。私は時
間のたつのが早く感じた。すぐマラソンが始
まり、早く終わってほしい気持ちだった。最
後のときダッシュして、前にM君が見えたか
ら抜いた。とてもきつかったけど、色々な人
に応援してもらい嬉しかった。最後まで走れ
てよかった。頑張った結果、ベストが出て嬉
しかった。頑張ったかいがあった。

(中一 Y A)

簡単に満足はできないなあ

陸上において、満足とは何か？1位を獲
る事か？自己ベストを出すことか？正直、イマ
イチわからない。確かに、1位を獲れば誰だ
って嬉しい。ベストが出れば褒めてもらえる。
けど、それが「満足」かどうか？少し違う。
今年のマラソン大会は、満足して終わりたい。
そう思っていた。スタートした。最初から、
ずーっと1位でゴールまで走り切った。「はあ

終わったー！」ゴールした直後、満足できた
のか？考えてみた。ん〜：できていない。二
榎木先生とは、十一分台を出す！というのが
目標だった。今回は十二分十九秒：満足いか
ない：練習よりも遅い。

「はあ〜」満足して何なんだ？もうわか
らない。走ることが好きな自分には、満足とい
う言葉は存在しない。これからも、「好き」と
いう一心で走り続け、満足という言葉を使え
るようにする。そして、来年この作文を書く
ときには、満足して終わりたい。(中二 U M)

今までが一番良かったマラソン大会

今日は最後のマラソン大会でした。記録は
十四分十七で、自己ベストが出ました。

まず走る時は顔を振らずに腕の振りをし
っかりとし、前の人について行く。そしてせ
り合いたい相手がいた時には、前半からつい
て行って後半でペースを上げる。「疲れた」「つ
らい」と思っても足を止めずに最後まで走り
切って、良いタイムを目指すのだ。そのため
には持久力を高めて、休みの日にジョギング
などをやる。

本番、走っている時は、後半ぐらいからA
君のペースが落ちてしまったけど、前にいた
S君を抜くことができず、ラストスパートで
H君に負けてしまった。だけど自分では本当
によく頑張れたなと思いました。

高校へ行ったら、中学の時よりも沢山走り
込み、持久力を高めたいです。(中三 I M)

連載「ステパノ散歩」—私の好きな場所—

飼育小屋

小学校舎職員室前に、小さな飼育小屋があ
り、そこに小動物がいます。私は元々、動物
全般が大好きだったので、中学二年生の時か
ら飼育委員になりました。委員になりたての
時は掃除担当が大変で、自分には無理だつた
のかなと思うこともありましたが。でも今は慣
れて楽しいし、掃除が終わった後はきれいに
なつて良かった、と思うんです。

小屋の中にはうさぎが四羽と合鴨が二羽い
たのですが、昨年うさぎ二羽と合鴨一羽は、
私たち飼育委員の知らない間に死んでしま
いました。老衰だったようです。

その数か月後、うるさい鶏が仲間になりま
した。アロウカナという種類で、みんなは「ア
ロちゃん」とか「アロ」と呼んでいます。私
はアロちゃんに「今日もカワイイね！」とか
「今日もウルサイね！」などとよく話しかけ
ています。帰日も「バイバイ」と声をかけま
す。前は返事してくれなかったけれど、最近
は返事してくれるようになり、ちよつとは私に
なつてくれたのかな、と
思います。人なつこくて時
にうるさく、時にはつっ
てくるアロちゃん。とても
かわいいです。

卒業しても会いに来たい
です。(中三 Y R)





二十代の先輩からのメッセージ(三)

最終回の今月号では、お二人の卒業生からのメッセージをお届けします。

お一人目は村田天翔さんです。

—今は何をされていますか？

「多摩美術大学という大学で演劇のことを学んでいます。現在四年生で、卒業後はプロの役者としていろんな舞台に出られたらと思っています。」

—ステパノで印象に残っていることは？

「運動会です。特に、小学生から中学生へとバトンが繋がるリレーは、ステパノだからできることかなと思います。」

—あなたにとって、ステパノとは？

「そんなに長く生きていく訳ではないですが、何となく人生の大きな分岐点だったのかなと思います。特にステパノ独自の、そんなに先輩後輩関係なく人と生活する経験は、今の自分に大きく影響していると思います。」

—先輩へメッセージをお願いします！

「この学校ほど人と密に時間を過ごす学校もそうないと思います。ステパノでの出会いを卒業後も大切にしたいと思います。」

* * *

お二人目は現在ステパノの事務職員として働く新庄主来さんです。

—今は何をされていますか？

「庶務という仕事をしています。聖ステパノ学園で働かせて頂いてから、一年弱がすぎましたが、まだまだ分からないことも多く、日々、修行中の身です。とにかく、今は、自分に与えられた仕事を一生懸命に取り組んでいきたいと思っています。」

—ステパノでの生活は？

「一番印象に残っていて、一番嬉しかったことは、授業の前に『礼拝が必ずある』ということです。イエスさまにまず礼拝をお献げしてから学園生活が始まるキリスト教主義の学校なら当たり前と思っていたのですが、毎朝チャペルで礼拝をもつ学校は数少ないです。改めて、私が聖ステパノ学園に導かれたことをイエスさまに心から感謝致します。」

—先輩へのメッセージをお願いします

「私が聖ステパノ学園で生活していたのは、小五から中三までの短い期間でしたが、様々なことを学ばせて頂きました。辛いこと、楽しかったこと、いろいろとありましたが、今の私にとって聖ステパノ学園卒業生という肩書きは、誇りであり、自慢です。最後に皆さん、この学園を卒業した後も、困ったときは、ここで毎朝礼拝していたイエスさまにお祈りしてみてください。必ず答えてくださいます。」

先輩のみなさん、ご協力感謝いたします。

STEPHEN'S NEWS

・第53回神奈川県中学校美術展

優良賞「夢の色彩」中2 NK

・第14回湘南国際マラソン

2km ジュニアユース男子

完走 中3 IM

・第52回卒業生送別マラソン大会

小学男子B 2.4キロの部 準優勝 小6 OS

小学女子B 2.4キロの部 優勝 小6 FH

小学女子B 2.4キロの部 第3位 小5 AM

中学男子 4キロの部 優勝 中2 UM

中学男子 4キロの部 第5位 中1 MK

中学男子 4キロの部 第6位 中2 KY

・第7回大磯小学生駅伝大会

優勝 聖ステパノ学園小学校チーム

小6 OS 小5 KS 小5 AM

小6 FH 小6 MK 小5 HM

・神奈川県私立小学校協会 永年勤続表彰

教諭 和田好江

【編集後記】

マラソン大会は、天候に恵まれて当日を迎えました。目標を持ってベストを尽くし、完走した子ども達の笑顔が印象的でした。心からの応援をありがとうございました。(ひ)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

http://www.stephen-oiso.ed.jp

二〇二〇年 二月十日(月) 発行 第240号